

空港がまちにもたらす効果とその可能性について

Effects and Possibilities which airport give towns

○石松玲¹, 天野光一², 西山孝樹²*Akira Ishimatsu¹, Koichi Amano², Takaki Nishiyama²

Abstract: An airport has a function as a place where airplanes arrival and departure, and other roles are also expected. Moreover, their roles expecting original functions are unique and the expansion of them is remarkable. In this paper, therefore, we surveyed and sorted out independently activities at 25 airports in Japan. As a result, it turns out that activities other than an essential function of an airport added value to a “town” in addition to original functions. The fact shows the new possibilities for airports.

1. はじめに

空港とは、本来航空機の発着の場であり、航空機の利用者が訪れる場であるが、最近では展望台の整備や「空の日」にまつわるイベント、facebook による情報公開などを行う空港が多数存在し、空港本来の機能を果たすだけではなくてきていると言える。

また、それらの取り組みは空港ごとに特色があり、空港と“まち”との間に新たな関連性を生み出している様子が見受けられる。例えば、正式名称とは別の愛称を命名することも、空港本来の機能とは別に、空港の利用促進や郷土色の反映を目指した取り組みの 1 つである (Table.1 参照)。

そこで本稿では、各空港で行われている独自の取り組みを調査し、空港の新たな可能性を明らかにした。

2. 研究方法

国土交通省が定める、国管理空港、地方管理空港、共用空港から Table.1 に示した 25 空港を対象とし、各空港で行われているイベント、施設、物販 (以下、要素) を調査した。

3. 研究結果

前章で示した 25 空港で行われていた要素のうち、31 の要素を抽出した。それら抽出した 31 の要素を整理すると、「魅力の因子」、「対象がどこであるか」によって分類され、Table.1 の①～⑥のいずれかの項目に該当することが明らかとなった。ただし、複数の枠にまたがるものもあり、1 要素 1 項目とは限らない。

飛行機が眺められたり、空港設備の利用が出来るなどして、空港ならではの魅力を味わえることを「空港らしさ」とし、また、地元の名産品に触れるなどして、地域ならではの魅力を味わえることを「地域らしさ」と規定した。また、航空機利用のために空港を訪れた旅行者や出張者が対象とされる要素を「空港利用者」とし、「空港利用者」以外に、各要素のために集客した

人々が対象とされている要素を「空港利用者以外」と規定した。

31 要素の中でも、該当する特徴が顕著な要素の例を、該当項目とともに以下に記した。

Table.1 本稿で対象とした空港の一覧

国管理空港							
No.	空港名	愛称	所在都道府県	空港HP	展望デッキ	Facebook	空の日イベント
1	東京国際空港	—	東京都	○	○	○	○
2	新千歳空港	—	北海道	○	○	○	○
3	稚内空港	—	北海道	○	○	×	○
4	釧路空港	たんちよう釧路空港	北海道	○	○	○	○
5	函館空港	—	北海道	○	○	×	○
6	仙台空港	—	宮城県	○	○	×	○
7	新潟空港	—	新潟県	○	○	○	○
8	広島空港	—	広島県	○	○	○	○
9	高松空港	—	香川県	○	○	○	△
10	松山空港	—	愛媛県	○	○	×	○
11	高知空港	高知龍馬空港	高知県	○	○	×	○
12	福岡空港	—	福岡県	○	○	×	○
13	北九州空港	—	福岡県	○	○	×	○
14	長崎空港	—	長崎県	○	○	×	○
15	熊本空港	阿蘇くまもと空港	熊本県	○	○	×	○
16	大分空港	—	大分県	○	○	×	○
17	宮崎空港	宮崎ブルーゲンピリア空港	宮崎県	○	○	×	○
18	鹿児島空港	—	鹿児島県	○	○	○	○
地方管理空港							
19	大館能代空港	あきた北空港	秋田県	○	○	○	○
20	花巻空港	いわて花巻空港	岩手県	○	○	×	○
21	福島空港	—	福島県	○	○	×	○
22	静岡空港	富士山静岡空港	静岡県	○	○	○	○
23	鳥取空港	鳥取砂丘コナン空港	鳥取県	○	○	×	○
24	出雲空港	出雲縁結び空港	島根県	○	○	×	○
共用空港							
25	茨城空港	—	茨城県	○	○	○	○

凡例 ○：存在あり ×：存在なし △：類似イベントあり

Table.2 要素の「対象」と「魅力の因子」の分類

	地域らしさ	空港らしさ	その他の魅力
空港利用者	①	③	⑤
空港利用者以外	②	④	⑥

(1) 空港利用者以外（主として、空港が所在する地域住民対象）を対象としている要素

これは、航空機の発着の場という本来の空港の機能を超えて、“まち”にとって意味のある場所として位置づけようとする方策のひとつであると考えられる。

a) 鳥取空港「早朝滑走路マラソン」

—Table.1 項目④

2016（平成 28）年 7 月 30 日に定期便の就航前に、普段は立ち入りが制限されている全長約 2km の滑走路の往復をコースとするマラソンが行われ、事前申し込み者の 110 名が参加した。さらに、全日本空輸株式会社（ANA）の協力によりコース内に駐機している機体の下を通ったり、触れたりすることが可能であった。

空港利用者以外を対象としたイベントの中でも、さらに「地域らしさ」を魅力に加えたものもある。

b) 茨城空港「夜空（そら）コン」

—Table.1 項目②, ④

2016（平成 28）年 9 月に行われた、いわゆる街コンスタイルのイベントで、茨城空港と、近くの地域振興施設「空のえき そ・ら・ら」を巡って、事前申し込み者の男女に、新たな出会いを提供する。空港の景色を眺めながらの食事や地元貢献が含まれた企画である。

(2) 利用者も、空港利用者以外もその双方を対象としている要素

前述のような、主に地域住民の参加を想定した方策であり、且つ空港利用者も参加可能である要素の場合（#1）と、基本的に後述する、空港利用者対象の要素であるが、場合によっては空港利用者以外の参加も考えられる場合（#2）がある。前者の意義は（1）に近く、後者の意義は（3）に近い。また、「空港らしさ」や「地域らしさ」から逸脱した魅力をもつものもある。

(#1) a) 広島空港「エアポート恐竜ワールド」

—Table.1 項目⑥

2016（平成 28）年 7～9 月まで、恐竜の模型や化石の展示、恐竜映画の上映などのイベントが行われた。また、恐竜に関する食事メニューの提供やグッズ販売などの企画も付随して行われた。全長 5m の大型恐竜の模型が目につきやすい到着ロビーに設置されており、イベントを知らずに訪れた人も楽しめる内容である。

一過性のイベントではなく、常設の施設からのアプローチも存在する。

(#1) b) 新千歳空港「ソラシネまちとせ」

—Table.1 項目⑤, ⑥

全 3 スクリーンを有する映画館であり、国内初として空港ターミナルに併設された。

空港ビル会社の取り組みに加え、エアラインの協力により、更なる魅力展開がなされた例もある。

(#1) c) 福島空港「ふくしまおおぞらフェスタ」

—Table.1 項目①, ②, ③, ④

2016（平成 28）年 5 月 14～15 日に、福島空港のターミナル、エプロン（飛行機駐機場）、駐車場エリアにて、音楽フェスが開催された。エプロンサイドステージでの音楽フェスは世界初である。これに伴い、全日本空輸株式会社（ANA）によってフェスを含めたツアーが企画された。ツアーの内容には、往復の航空便（チャーター便）と宿泊に加え、産地直売所や、「野口英世記念館」への立ち寄りという地元観光も含まれている。

空港設備の利用による「空港らしさ」と、地元立ち寄りへの寄与による「地域らしさ」が企画されている。

(#2) a) 仙台空港「屋上展望デッキビアガーデン」

—Table.1 項目①, ③ (②, ④)

2016（平成 28）年 8 月に仙台空港の屋上展望デッキにて、ビアガーデンが設置された。17～20 時の常設であり、食事メニューに地元名産品が含まれる。

空港ならではの景観や地元の食材を堪能できるが、営業時間や、空港までのアクセスを考慮し、該当項目は上記のとおりである。

(3) 空港利用者が対象

主として、空港利用者が、待ち時間を有意義に過ごすための要素で、基本的にはそれ以外の人の利用を考えていないものであり、常設の施設が考えられる。

a) 大分空港「大分空港足湯」

—Table.1 項目①

到着ロビーに足湯が常設されており、無料で利用できる。温泉水は、別府温泉から毎日運搬されている。

推進される入浴時間は約 20 分と短時間で、且つ「日本一のおんせん県大分」特有の取り組みである。

4. まとめ

本稿では全国の空港を対象とし、各空港で行われている独自の取り組みを調査し、空港が所在する“まち”にもたらす効果や付加価値を見出すことが出来た。さらに、空港へアクセスの利便性や、航空会社の協力の重要性も明らかとなった。

今後の研究により、各空港ごとに、どのような要素が必要とされるかを見出していきたい。

5. 参考文献

- (1) 国土交通省ホームページ：
http://www.mlit.go.jp/koku/15_bf_000310.html, 日本語, 2016 年 7 月 10 日閲覧
- (2) 航空ファン・飛行機利用者のためのサイト：
<http://flyteam.jp/>, 日本語, 2016 年, 日本語, 2016 年 7 月 15 日閲覧
- (3) 「ニッポンの地方空港最前線」, 『月刊 AERLINE』, 2015 年 11 月号, pp.26-63, イカロス出版